

2002全日本A R D F 競技大会実施要項

1. 主催 社団法人日本アマチュア無線連盟
2. 後援 日本アマチュア無線機器工業会（予定）
3. 期日 平成14年10月6日（日）
4. 開催地 北海道地方本部区域内（札幌市近郊）
5. 参加費
 - (1) 連盟会員 5,000円（傷害保険を含む）
ただし、平成14年1月1日において満年齢が19歳未満の男女は、2,000円とする。
 - (2) 連盟非会員 10,000円（傷害保険を含む）
ただし、平成14年1月1日において満年齢が19歳未満の男女は3,000円とする。
6. 競技参加者の資格
 - 国内に住所を有する者
 - 外国人選手（国内に住所を有しない者）
7. 競技の実施方法
A R D F 競技の実施方法による。ただし、同実施方法のうち競技部門については、「144MHz帯部門」のみとする。
8. 表彰
 - (1) 次のとおり、大会会長などより賞状等を贈呈して表彰する。
 - 大会表彰： 外国人選手を除く参加者を対象とし、競技クラス毎に参加者数を確定し、それぞれの参加者数に応じて次の順位までのものに、1位から3位までは賞状とメダルを4位から6位までは賞状を贈呈して表彰する。

a: 競技参加者数が10人以下の場合	2位
b: 競技参加者数が11人から20人の場合	3位
c: 競技参加者数が21人から30人の場合	4位
d: 競技参加者数が31人以上の場合	6位
 - 特別賞： 外国人選手の参加があった場合は、競技クラス毎に、すべての参加選手を含む競技成績に基づき特別賞を贈呈して表彰することができる。
 - 高等学校対抗部門賞： J N , Y L クラスの参加選手の在籍する高等学校を対象とし、学校別に、競技成績の順位により団体戦

順位決定方法（別紙 1）に従って、1 位から 6 位までの高等学校に賞状等を贈呈して表彰する。

支部対抗部門賞：団体戦順位決定方法に従って、連盟支部対抗の 1 位の支部に賞状を贈呈して表彰する。

地方本部対抗部門賞（日本アマチュア無線機器工業会賞）：団体戦順位決定方法に従って、連盟地方本部対抗の 1 位の地方本部に賞状を贈呈して表彰する。

9 . 参加申込締切日

平成 1 4 年 9 月 6 日（金）（消印有効）

10 . 競技参加の申込先

〒170-8073

東京都豊島区巣鴨 1 - 1 4 - 5

J A R L 運用課気付

2002全日本 A R D F 競技大会実行委員会

TEL 03-5395-3112

mail to oper@jarl.or.jp

参考

事故防止のために、別紙 2 の「参加者に対する安全対策ガイダンス」により事前に周知する。

競技大会の安全対策については、別紙 3 に示す。

全日本 A R D F 競技大会における連盟支部対抗及び
地方本部対抗等の順位の決定方法について

平成 1 0 年 8 月 8 日改正

1 . 連盟支部対抗の順位決定方法

同一支部区域内に住所を有する各クラス入賞者に次のように得点をつける。
各クラス入賞者の得点を当該支部ごとに集計し当該支部の総得点とする。
その総得点順位により各支部の順位を決定する。
なお、総得点が同点の場合は、同率順位とする。

順位 \ クラス	J N	O M	O T	V T	Y L
1 位	18点	18点	18点	18点	18点
2 位	15点	15点	15点	15点	15点
3 位	12点	12点	12点	12点	12点
4 位	9点	9点	9点	9点	9点
5 位	6点	6点	6点	6点	6点
6 位	3点	3点	3点	3点	3点

2 . 連盟地方本部対抗の順位決定方法

同一地方本部区域内に住所を有する各クラス入賞者に連盟支部対抗と同様に得点をつける。

各クラス入賞者の得点を当該地方本部ごとに集計し当該地方本部の総得点とする。その総得点順位により各地方本部の順位を決定する。

なお、総得点が同点の場合は、同率順位とする。

3 . 高等学校対抗の順位決定方法

競技参加者の在籍する学校別 T X 探索数を加算し、その総合計数の多いものから順位を決定する。

なお、総合計が同点の場合は、学校別の競技者の探索平均値の多いものから上位に、同じ値の場合は、学校別の時間平均値の小さいものから上位とする。

失格者はカウントしないこととする。

競技参加者に対する安全対策ガイダンス

A R D F という競技は、時間制限 100 ~ 140 分、競技地域の高低差が、200 m 以内、総走行距離 5 ~ 10 km、各 T X の間隔は 400 m 以上で、スタート地点から最も近い T X でも 750 m 以上離れていること、そして、なるべく早く、しかも決められた T X をいかにして多く探索するかを競うもので、精神的にも肉体的にもハードなスポーツです。したがって、ある程度の危険が伴いますので、健康診断チェックを守って参加してください。

健康診断チェック

(1) 日頃の自分のコンディションを十分把握しておき、健康診断等を受けておいて下さい。

(2) 次に該当する人は、当日の参加をご遠慮ください。

酒の飲み過ぎ、寝不足と思ったとき

かぜ気味、下痢気味のとき

心臓や肺に病気があるとき

頭がボーッとして、のぼせるようなとき

自分の脈拍を知っていて、異常が感じられたとき

胸がしめつけられるようなとき

(3) 身体が不調なときや、競技中、無理だと思ったらすぐやめて下さい。

競技中の事故については、主催者は応急処置は行いますが、それ以外の責任は負いません。各自の体力に応じて十分注意して競技に参加して下さい。

参加者全員が傷害保険に加入していますので、怪我などの場合は、直ぐに連絡して下さい。(健康保険証を持参して下さい。)

競技大会における主催者側の安全対策ガイダンス

A R D F 競技はその参加者の年齢層が少年少女から、かなり高齢者まで広い範囲におよび、必ずしも普段から十分に身体をトレーニングしている者だけが参加するとは限りません。従って、この競技は、医学的にはある程度のリスクが含まれると思われれます。特に事故が発生すれば、一番危険性が高いと思われれるものは、男女を問わず、中高年者が急激な運動による過労から起きる呼吸停止と、心停止、心筋障害および脳循環障害等です。

スポーツによる突然死の社会責任を考えると、主催者側としては、参加者にどのような誓約をとっていても、現実に突然死が発生したときにどう対応すべきかを十分に考慮したうえで、大会を開催することが必要です。

次の事項を参考にしてください。

- 1 . 競技参加者などより誓約書、承認書を必ず提出させる。
- 2 . 競技大会組織図を必ず作成し、競技大会本部に提示する。
(救護班を明記する。)
- 3 . 緊急時の連絡網と連絡先一覧表を必ず作成し、大会本部に提示する。
また、救護班の受付場所 (窓口) の看板を掲げる。
- 4 . 競技地域の審判員に対して、緊急時における救護班との密接な連携について再度徹底する。
- 5 . 事前に、当日利用できる消防署及び医療機関等に事前に連絡を取り、緊急患者の受け入れ等について話し合いを済ましておく。
- 6 . 参加者の名簿 (住所、電話番号など) を必ず作成する。
(参加申込書をゼッケン番号順にファイルしたもの。)